

Real Style Ism

Real Style Ism 発刊にあたって

代表取締役社長 鍵谷 健

リアルスタイルの本質は「成長」です。人はなぜ生きているのか。人の本質は何なのか。

私はよく、人体を地球に例えますが、その中で人間という存在は脳細胞であると考えています。我々の生きる目的は、一つの細胞として与えられた本分（使命）を全うすること、役割を果たすこと。そして、その本分を全うするツールとして、Real Style Ism は存在していると考えています。

人はすぐに目の前のことに甘えてしまうので、Real Style Ism というツールや、この手帳を使って、自身の本分を全うできるように、生きていく（成長する）ことができれば、死ぬ時に幸せな人生であったと心から思えたり、後悔することが無いと思うのです。誰にも後悔をするような人生は送って欲しくありませんし、人として与えられた

本分を全うして生涯を終えて欲しいと考えています。

この手帳で、人としてあるべき姿を示したつもりです。人によって価値観は様々ですが、ここで語られていることは万人が「間違えてはいない」と思えるはずで、書かれている内容を意識して生活し、仕事をしていただければ幸せな未来に自然とつながると確信しています。

しかし、それを選択するもしないもあなた次第です。多くの時間を費やす仕事において、価値観や目指すべき方向は同じである方が心地いいですし、あなたも私も、家族もスタッフも、みんな幸せになると思います。

改めて、私たちが何のために生きているのか？ 命を全うするために生きているわけですから、輝いた人生になるよう、みんなが努めていければと思います。

人々の心や身体の健康づくりに貢献する

「健康」と聞くと、多くの人は「身体の健康」すなわち「病気がない状態」をイメージするのではないだろうか。また、精神的な心の健康をイメージされる方も多いと思います。もちろんそれらも健康の一つですが、WHO（世界保健機関）憲章において「健康」は次のように定義されています。

「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、全てが満たされた状態にあることをいいます。」

身体の健康だけでなく、心はもちろん、社会的にも満たされた状態が健康であると定義されているのです。

では、社会的に満たされるとはどういうことでしょうか。

それは「人から必要とされ、家庭や職場に自分の役割があること、社会の中に自分の居場所を感じられる状態」であると言えます。

人は、成功体験を積み重ね、自己肯定感を得ることで自分の役割や居場所を見出していくのだと思います。そして、それこそがまさに「成長」なのです。成長すること、成長したと感じるからこそが「社会的健康」に繋がると信じています。

スポーツや食を通じて、自分はもちろん関わる全ての人に心や身体の健康を提供するとともに、社会的にも満たされた状態を感じていただくことが、私たち Real Style の使命です。

社訓

私たちは、お客様を幸せにする教材、
サービスを提供します。

私たちは、向上心をもち、
日々学び続けます。

私たちは、何がより良いかを常に考え、
明確に立場をとり、自ら行動します。

私たちは、小さな問題を放置せず、
即改善します。

私たちは、笑顔とユーモアを忘れず、
率先して仕事を乐めます。

RealStyleIsm

CONTENTS

RealStyleIsm発刊にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

経営理念

人々の心や身体の健康づくりに貢献する・・・・・・・・・・4

社訓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

第1章

私たちは、お客様を幸せにする教材、サービスを提供します。

RealStyleにとってのお客様とは？・・・・・・・・・・・・・・・・16

「お客様」にどつての「幸せ」とは・・・・・・・・・・・・17

どつてお客様を幸せを願うのか・・・・・・・・・・・・18

伝説の顧客対応①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

伝説の顧客対応②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

伝説の顧客対応をするためには・・・・・・・・・・・・・・・・22

第2章

私たちは、向上心をもち、日々学び続けます。

なぜRealStyleは「成長」に重きを置いているのか・・・・24

向上心を常に持ち、成長意欲を無くさない・・・・・・・・25

成長が人にとって最大の命題である理由・・・・・・・・27

素直な心を持つ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

素直であるためには・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

トイレ掃除の話・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

常に謙虚な気持ちでいる・・・・・・・・・・・・・・・・34

いつも夢を持つ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

夢を持つことの素晴らしさ・・・・・・・・・・・・・・・・38

RealStyleIsm

CONTENTS

■3■

マイルストーンの話

40

私たちは、何がより良いかを常に考え、明確に立場をとり、自ら行動します。

やるべきことをやる、やらないことを決める

44

明確に立場を取る

46

立場を取るということは、責任が伴い勇気がある

47

どうすれば立場を取れるようになるのか

49

リーダーシップを発揮する

50

RealStyleIsmが求めるリーダー像

52

フォロワーシップで支える

53

不平不満を言うのではなく、建設的に考え行動する

54

私心に支配されない

55

■4■

私たちは、小さな問題を放置せず、即改善します。

物事の本質を見極める

58

素直と従順は違う

60

顔色窺いは信頼を失う

61

分かりやすい答えに行き着いた瞬間に思考を止めてはいけない

62

議論することを恐れない

64

問題点を指摘することへの恐怖

65

問題解決しようとしている人に協力する

67

無意識の顕在化

69

■5■

私たちは、笑顔とユーモアを忘れず、率先して仕事を楽しまします。

元気で明るく笑顔でいることの大切さ

72

RealStyleIsm

CONTENTS

■6■

前向きに考えられる思考を持つ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
 与えられた仕事や環境を「好き」になる。興味を持つ・・・・・・・・ 75
 面白いと思えない仕事を楽しむには・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
 感謝しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79

人として大切なあり方

神様が見ているという感覚を持つ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
 徳を積む・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
 正直に生きる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
 他責ではなく自責で物事を考える・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
 人の良いところを見つける・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
 全員の心を一つにする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89

■7■

行動し続ける・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90

仕事の進め方

なぜ仕事をするのか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
 スピードを重視する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
 マネジメントでできる人が増えれば組織は大きくなる・・・・・・・・ 97
 アンテナの感度を高める・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
 アンテナの感度を高めるには・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99
 気持ちよく仕事をする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101

沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105

第1章

私たちは、お客様を幸せにする教材、
サービスを提供します。

Real Styleにとってのお客様とは？

私たちにお金を支払ってくださる存在であることはお客様の側面の一つですが、それ以上に自分たちの可能性を広げてくださる存在だと思えます。お客様の要求に応えることは私たちの成長に繋がります。もちろんお客様の言いなりになってほしいとは考えていませんし、お客様のわがままを聞いてほしいとも思いません。法に触れたり、倫理に沿っていない考えを持つような人、Real Styleの価値観に沿っていない人の要求に応える必要もありません。

しかし、その時に悪いことをしていたり、曲がった思考を持っている人であっても、元々そのような人格であるという訳ではなく、たまたま魔がさしたり、その時の気分や気持ちで、間違えた選択をしていることが多いと考えられます。ですから皆さんには状況を客観的に捉えた上で、基本的に「性善説」で対応してもらいたいと考えています。もちろん社訓に沿った判断をしていることが大前提です。

「お客様」にとっての「幸せ」とは

まず、お客様にとっての幸せを自分自身が「知っている」と思っていないかもしれません。予想と正解は一致することはありませんが、本当に答えを知っているのは「お客様」だけです。分からないことは、分かる人に聞けばいいのですから、お客様と接する機会を増やしてお客様が求めている商品、サービスは何なのかをヒアリングしてください。するとお客様は何かから「幸せ」を感じているのかが見えてきます。その「お客様の幸せ」を提供できれば喜んでもらえますし、それを提供することに私たちが喜びを見いだすことができれば、お客様、その業界、そして自分自身の幸せに繋がっていきます。そして、これらは会社の幸せでもありません。私たちは、全ての人が幸せになれる仕組み作りができるよう努めなければならないのです。

どうしてお客様の幸せを願うのか

お客様に限らず、人を幸せにすることで自分自身も幸せな気持ちになります。仕事において人に幸せな気持ちになってもいい自分も幸せな気持ちになれるなら、そんな幸せなことはありません。ですので、仕事において良い影響を与えることができる、お客様を幸せにする教材や商品、サービスを提供することが大切だと考えています。お客様でなくても隣に座っているスタッフが幸せになるように仕事をするのも一つです。しかし、私たちの給与はお客様からお支払いいただいたお金の中から生まれてくるので、事業として考えると、最終的に重要度が高いのはお客様が幸せになれるかどうかです。

お客様が神様だとは言いませんが、経済的にも成長の機会から見ても、会社の繁栄を支えてくださっているのはお客様であることは間違いありません。

伝説の顧客対応①

DVDを購入されたお客様から「PCでは再生できるのだが、DVDプレーヤーで見ることができない」との連絡がありました。DVDに不具合がないかチェックをしましたが、不具合は見つかりませんでした。さらに深掘りしてみると、お客様がお使いのプレーヤーの読み取り性能が高く、それによってエラーを起こしていることが判明しました。製作当時の状況が招いた問題ではありませんが、お客様の立場からすれば、見ることができないと思うものを見ることができないというのは（いくらPCで見ることができたとはいえ）自分なら納得ができないと思います。私はすぐさま家電量販店に走り、8,000円程度のプレーヤーを購入し、同タイトルの動作確認を行いました。動作確認のために開封したが新品であるというコメント共に、お客様に新品のプレーヤーと新品のDVDを無償でお送りしました。その後、お客様からは「無事に見ることができた」とお返事を頂くことができました。

DVDの価格は4千円程度にもかかわらず、8千円のプレーヤーともう1枚の4千円のDVDを無償でお送りするというのは、お客様も想像されなかった対応だと思えます。このように「何が何でも徹底的に対応をする」。これが伝説となる顧客対応でしょう。

伝説の顧客対応②

お客様から製品に対するご感想を頂く。担当者をご指名いただいてお電話を頂戴する。旅行に行ったとお土産をお送りいただく…など、お客様からの反応は様々であります。私たちが想像だにしない反応を得られるということは、私たちがお客様に想像を絶する伝説の顧客対応ができているということの裏返しだと思えます。お客様に喜んでもらうのは当然のことです。しかし、お友達やご家族に「ちょっと聞いて、こんな対応をしても良かったよ」と思わず話をしたくなってしまいう対応とはどのようなものでしょうか？顧客対応をするときは「ただ対応をする」のではなく「伝説になるような対応」を心掛けなければいけません。ただ「対応」しているだけだとマンネリ化してしまいますが、「伝説の顧客対応」を意識しているとマンネリ化しないのです。マンネリ化は自分では気付かないもの。上長を中心に周りのスタッフと切磋琢磨し、より良い対応を心掛けなければいけません。

伝説の顧客対応をするためには

お客様それぞれ感度は違いますが、「伝説の顧客対応」の基準は、お客様がご家族や友人に話したくなるかどうか、お礼の手紙や電話をかけようと思うかどうか、一つの基準になると思います。対応のアイデアも裁量も経験も人によって違いますから、全員が完璧に対応できるとは思っていません。ですが、今回よりも次回、次回よりもその次と、より良い対応になっていくことを心から願っています。伝説になるかどうかは、お客様が決めます。ですので、今できうる、考えうる最善を尽くそうと、意識して行動してもらえただけでよいのです。まずは今、自分自身の思いつく範囲で、お客様に「わぁー！すごい」と驚いていただけるような対応をしてみたいです。そして、社訓に沿って対応ができているかを常に自問自答してもらいたいです。それによって確実に伝説の顧客対応に近づき、近い将来、数々の喜びのお声を頂くことになるでしょう。

第2章

私たちは、向上心を持ち、
日々学び続けます。

なぜReal Styleは「成長」に重きを置いているのか

「成長」とは言い換えると、今以上に「より良くなる」ということだと思えます。より良くなる人間、より良くなる会社が魅力的でないはずがありません。魅力的な会社や人やコミュニティは世に認められ、キラキラ輝くことは間違いないでしょう。その逆として、成長をしていないということは、魅力もなく、誰からも特に興味や注意を払われることもなく、認められることもないということになります。自分自身、そして会社は、どのような未来に向けて進んでいきたいかと考えれば、おのずと答えは出るでしょう。日々成長に向けて前進を続けるということは、とても重要で大切にすべき価値観です。

向上心を常に持ち、成長意欲を無くさない

Real Styleは「成長」に重きを置いた会社です。成長にはスキルのな成長もあれば、精神的な心の成長もあります。また、成長には個人的な成長もありますし、チームとしての成長、会社の成長、そして社会や地球の成長もあります。スキルの成長は一定の時間をかければある程度は果たせますが、心の成長は「成長しよう」という意欲がないと成長しません。また、「成長しよう」という意欲や思いがあれば、心の成長だけでなく、スキルの成長もとても早く成し遂げられるのです。

京セラの稲盛和夫氏は「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」であると言います。ここでは「人生・仕事の結果」と言われていますが、Real Styleでは「人生や仕事の結果」は「成長」であると考えています。今日より明日、明日より明後日。今年より来年。5年後より10年後と、誰しも年月をかければ成長はしてい

ますが、先ほどの方程式に当てはめると「考え方×熱意×能力」で成長を最大化できるとするならば、良い考え方で熱意をもって能力を磨けば「最大の成長」に繋がり、結果、人生や仕事で最大の成果が上げられると思います。

「成長は人にとって最大の命題」ですから、考え方を磨き、熱意を磨き、能力を磨くことが私たちの人生を最高のものにしてくれることと確信しています。

成長が人にとって最大の命題である理由

人は生まれた瞬間から死に向かっていきます。細胞分裂を繰り返し、その細胞分裂の可能回数を越えるといつ一つの細胞が死んで減っていき、生物としての機能を果たせなくなることで死を迎えます。人間は誰もこのような過程を辿りますが、生を受けたその中で私たちはどのような人生を刻むのかを選択することができます。生まれてから死に向かって細胞分裂を繰り返し、命を全うする。これは極めて尊く、貴重な体験ではあるのですが、せっかく思考や感情を持った人間として生まれたのですから、意図して「成長」を望み「成長」を促すという選択をしていくことで、より良いものとなるのではないでしょうか。細胞分裂を繰り返すこと自体が「成長」の繰り返しであるといえますが、人間として生まれたからには意図して成長に向けて前進を続けたいものです。人間という生物の中でもさらに大きく成長、進化することを選択する権利が私たちには与えられているのです。

素直な心を持つ

成長には「考え方×熱意×能力」が大切であるということは前述の通りですが、これらは掛け算なので、どれかが0だと全てが0になってしまいます。考え方や熱意が0なら動きませんし、能力が0では得たい結果は得られません。

この中でも特に大事なものは「考え方」だと思います。考え方は唯一、マイナスがあるからです。考え方がネガティブであったり、会社が大切にしている価値観と逆を向いていれば、成果はマイナスになってしまいます。価値観が違えばReal Styleではない船に乗った方が本人にとって幸せだと思うので、別の船に乗り換えていただくことをお勧めしますが、価値観が一緒であるならば（前向きな考え方を持てる人であれば）成果は大きくなります。そんな考え方の中でも「素直な心を持つ」ということがとても大切です。「素直な心」は成長に繋がる「考え方、

情熱、能力」の向上に強く結びついています。謙虚で素直な心は考え方を常に前向きにしてくれますし、素直な心は情熱に火をつけてくれます。可燃性の魂は常に素直な心の中にあります。また、素直な心で学ぶこと、修練することで能力は早く向上します。このように素直な心は何事にもレバレッジが効くので、最も大事な魂の持ち方の一つなのです。

素直でいるためには

素直な心とはどのようなものでしょう。それは「知らないことや耳の痛いこと、その他様々な事にプライドや自尊心を一旦横に置き、真摯に耳を傾ける」ということだと思えます。頭では素直だと思い、言葉で素直な対応をしていますが、心から素直に聞けていなければ、そして、素直な対応を実際に取れていなければ、それは素直だとは言えません。プライドや自尊心は素直な心を曇らせます。裏を返せば、素直な人というのは、プライドや自尊心に囚われず、謙虚に物事を聞き吸収できる人のことです。そのような人は周りから好かれ、そこにある学びを最大限に吸収できます。ということは、最大限に成長できるということです。

そういう私も常に素直な気持ちで居続けられているわけではなく、自尊心やプライドに心がぐらつき、素直に物事を見られなかったり、対応できなかつたりすることもあります。しかし、常に素直でいられるよう自分に言い聞かせています。

素直で居続けるためのコツは、自身を客観視し、傲慢になっていないか、謙虚でいるか、人の意見に耳を傾けられているか、裸の王様になっていないか、言いにくいことを言ってくれる仲間が周りにいるか…このような事を意識し続けることだと思います。

素直でないで、本来得られるはずだった最大の学びを得ることができなくなってしまいますし、残念ながら周りの仲間も自然と離れていってしまいます。心が締め付けられるような苦しい思いをすることになるでしょう。そんな時は、苦しみから逃れるために、その苦しみを感じていないフリをして逃げることになるでしょう。ですが、それによって素直な人とは真逆の方向に進んでしまい、さらに素直でなくなっていくのです。まさに「魔のループ」です。このループに深く入ってしまうと、出ることはとても難しくなります。そのため、常に自制し、心から素直でいられているかどうかを、自問自答し続ける必要があるのです。素直な人は多くの学びを得ることができ、人としてもとても素敵なのです。

トイレ掃除の話

「トイレの神様」という言葉がありますが、実際にトイレに神様がいるかどうかは別として、トイレ掃除はともたくさんのことを教えてくれます。自宅のトイレ掃除もそうですが、会社のトイレ掃除をしたことがある人はいらっしゃるか。自宅のトイレなら、自分や家族の汚れなので気にならないかもしれませんが、会社のトイレとなると、いくら仲間とは言え他人の使ったトイレなので、いくらか抵抗はあるのが人情でしょう。

私自身、会社のトイレ掃除をし始めたときは「何でこんなところに飛ばすんだろう?」「汚れが便器に残っているのに気にならないのかな?」「便器周りってこんなに汚れているの?」などと毎日のように思っていました。「トイレの神様って何?」「トイレ掃除をしたらいいと本に書いてあるからやっているけど、何か学びがあるの?」「トイレ掃除をしてみました。素直な心の中ころでも書きましたが、このような事を思いながらも本で読んで、

学びが多いと書かれてあったので、半信半疑で続けました。そして、得たものは本に書かれていたことだけではなく、人間には書かれていない学びもたくさんあったのです。掃除をすると多くの学びを得られるのですが、そこに素直な心がミックスされるとその何乗にもなつて学びが増えるのです。詳しくは一度素直にトイレ掃除をしてみてください。(ちなみに、トイレ掃除が一番学びが多いのですが、他のところでもたくさん学びが得られます。)

常に謙虚な気持ちでいる

「素直な心を持つ」の項目でも書きましたが、謙虚な気持ちでいることはとても大切です。謙虚というと、偉そうにしていることの逆のように感じるかもしれませんが、それも間違いではないのですが「謙虚でないこと」にはたくさん種類があり、私たちはそれに気付きにくいことが多いのです。例えば「知っている」と思うこと。これは「知らない」という素直な気持ちの逆で、傲慢です。「なんで私が」「だって」という言葉が出てくるときも謙虚さにかけています。言い訳とまでいかずとも、このような言葉が出るということは謙虚さが欠けている証拠です。「賢者は愚者からも学ぶ」という言葉にもあるように、学ぶと思う心さえあれば何からでも常に学ぶことはできるのです。成長に重きを置いて謙虚な気持ちでいられる人は、多くのことを学べ、大きく成長します。ということは、人や仕事で結果を残せるということです。「謙虚」の反対は「傲慢」です。対義語で調べると「横柄」「高慢」「傲慢」

「不遜」「尊大」と出てきます。そう考えると私たちは常に謙虚でいる方が良いということも理解できますね。謙虚とは自身を卑下することではありません。ありのままを見て、更なる学びがそこにないかと探ることです。辞書で調べると「自分を偉いものと思わず、素直に他に学ぶ気持ちがあること」と出てきます。自分のことを偉いと思うてしまうと謙虚さに欠けてしまうということです。また、素直に他に学ぶ気持ちがなくなっても謙虚ではなくなるということですが、驕りや傲慢さがなく、他から学ぶ気持ちが持続けると、謙虚であり続けられるということです。成長を大切に考えると、自然とこのような姿勢になってくるのではないのでしょうか。傲慢な人と謙虚な人、どちらになりたいかを自問自答してみましょう。横柄で傲慢な人にならないように気を付けなければなりません。

いつも夢を持つ

目標や夢を持つことが良いということはよく言われていますが、会社で立てる目標はあっても、なかなか個人的に目標を立て、それを達成しようとする強いモチベーションを持っている人は多くないのではないでしょうか。しかし、目標や夢をもって行動すること、その方向に進もうとすることが良い事だということには誰もが認識していると思います。では、どうやって目標や夢を持つのでしょうか。

夢というと大きく感じるかもしれませんが、達成がイメージできるものが目標で、今の時点ではイメージが難しいけれど叶えたいと思うものが夢と定義してよいと思います。目標の延長が夢であるともいえますし、夢の手前が目標だとも言えます。また、夢と目標が同じ道の延長でなくとも構いません。

しかし、仕事においてはこの目標と夢の両方が個人のものと同じ、少なくとも方向性だけでも同じであると、1

日の大半を占める仕事において幸せなのではないでしょうか。自分はどんな時に幸せやワクワク、ドキドキや高揚感を得ることができるのかを自身に問いかけ、ワクワクの源泉を探究すれば夢や目標を仕事の延長上に持つてくることができると思います。そういった理由からも成長に重きを置いておくことは、常に夢や目標といった方向に自身を向け続けるのに最適であると考えています。

夢を持つことの素晴らしさ

叶えられると思えることは目標、こうなるといいなと憧れることが夢だと思います。現時点で達成がイメージできるかどうかで目標と夢の違いが生まれると思います。人によって感じ方や捉え方は違っているとしますが、夢は引張られるもので、目標は現時点から積み上げていくもののような気がします。目標を達成し、積み上げることで夢に向けて近づくわけですが、多くの人は目標と夢を全く別のものと感じているのではないのでしょうか。夢は必ず「なければならぬもの」だとは思いませんが、あると人生を彩る「素敵なもの」ではあると思います。夢に引張られて、目標を達成していく様はダイナミックで高揚感があり、自己肯定感を得られる素敵なものであるというのは間違いないでしょう。

夢とはそのように素敵なものだと思うので、現時点で見つかっていないなくても、目標を立て、それらを達成して、

どのような夢を持つとワクワクするかを考えてみることをお勧めします。

マイルストーンの話

夢の手前に目標があり、目標を達成し続けていくと夢に近づく。目標は達成できそうだと感じることができて、夢はその時点では達成できそうという実感がほとんど持っていない。だから夢なのです。

では、どうすれば目標を達成し、夢をかなえることができるのでしょうか。目標に向かって右足を出し、左足を出す。続いて次の右足を出して左足を進める。これによって1歩1歩前進することができ、目標への距離は縮んでいきます。1歩1歩は目に見えても、1000歩や10000歩を実際に見出すことはなかなか難しいです。1歩は目の前なので見えやすいですが、1000歩先ほどの程度の距離が、実際には目には見えません。

1歩を約40cmとすると、1000歩は40000cm、すなわち400m先です。では、400m先と言えば何が想像できるでしょうか。例えば陸上のトラック1周分。そう考えると800m先は2周分。1200mは3周分…。

こう考えると具体的にイメージができると思いますが、突然1200m(3000歩)と言われても、それはどこなのか、どんなところなのかイメージできません。

まずは、目標までの距離との間にいろんな中継地点を置いて距離感を測ることが重要です。イメージできるものであればあるほど、その中継地点も効果を発揮します。この中継地点のことを「マイルストーン」といいます。夢に対してもマイルストーンを置くことでイメージがしやすくなり、イメージができた時点で、それらの中継地点は目標となり、高い確率で達成できるようになります。こうして数々の目標を達成していくと、夢までの距離が近づき、過去の夢は現在の目標へと変わります。

このように夢や目標のイメージができるようマイルストーンを設定して、ドンドン歩みを進めていきましょう。憧れだった夢が近い将来、確実に叶うとリアルに感じるができることでしょう。

第3章

私たちは、何がより良いかを常に考え、
明確に立場をとり、自ら行動します。

やるべきことをやる、やらないことを決める

自分がやるべき仕事は何だろう。このように考えたことがある人もいるのではないだろうか。いわゆる「天職」や「天命」と言われるものかもしれません。この世に何のために生を受けたのか。いろいろな課題を通じて何を成し遂げたいか。何をすればよいか。考えるほど壮大な内容になってくるので、目の前のちよっとした幸せに目を向けることができなくなります。しかし、それとは逆で「何をしないか」「何をしてはいけないのか」が明確になれば、その逆が「やりたいこと」「やるべきこと」であるか見えてくるでしょう。「何をしないか」「何をしてはいけないのか」は、私たちが子供の頃から親や学校で習ってきたことだと思います。「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」という本の著者であり哲学者のロバート・フルガム氏は幼稚園で学んだ当たり前の事が大事だと言っています。分け合う、ズルをしない、誰かを傷つけたら「ごめんなさい」という、毎日少し勉強し、少し考え、不思議だなと思

う気持ちを大切に、などの人生で大事な事柄を伝えていきます。

これらのように生きることで、人生はより豊かになるでしょう。逆にこれらに反する生き方をしてはいけないと思います。やるべき事と共に、やらないことも決めてみましょう。

明確に立場を取る

社訓の中にもあって、社内でもよく使われる「立場を取る」という言葉。「立場」という単語を調べてみると「その人が置かれている境遇、条件」と出てきます。「立場を取る」ということは、自身で境遇や立場を選ぶことと言え換えられるかもしれません。どんな状況にあっても、自身で自分の境遇はこうだと決めれば、実際には違っても、それと同等の境遇に近づいていき、場合によっては本当にそういった境遇になっていくことが多いのです。卵が先か、ニワトリが先かという議論はありますが「実績が立場を作る」ことばかりではなく「立場が実績をつくる」ことも多いのは皆さんもご存知のはずです。だとすれば、あなたはどちらを選択しますか？与えられた境遇になるまで待つことも一つですが、待つという立場を取る人にそうした境遇が現れる確率は低いかもしれません。

立場を取るといふことは、責任が伴い勇氣がいる

「立場を取る」といふことは言い換えると「目の前のことに対して責任を負う」と自分で決めるということですが、責任を負うとなると、大きなことだけでなく小さなことでもどうしても勇氣が必要になってきます。では、どうすれば立場を取れるようになるのでしょうか。

これはまず、自身がその事柄に対して「立場を取っているかどうか」と自問自答することです。立場を取っている状態の自分には当たり前のように感じられることも、立場を取っていない自分からは見えてこないものがたくさんあります。まずは、自分自身が立場を取れていない現状であることを理解、把握できなければ、そもそも立場を取ることができません。立場を取れていないと気付いても、それだけで立場を取れるわけではありません。まず、立場を取れない自分に気付いて、勇氣をもって立場を取ると決めることが大切です。課された責任は力を削ぐケ-

すもありませんが、自身で取りに行った責任は自身の力付けになります。立場を取ると一言でいっても考えや感じ方は様々でしょう。責任を負うことへのチャレンジも必要になるでしょうし、立場を取っていないことを認めるという勇気もまた必要です。

立場を取らずに毎日を送るということは、自身で自分の人生の手綱を握っていないと言えるのではないのでしょうか。有意義な人生を歩むためにも、立場を取って、仕事だけでなく、いろいろなことに取り組んでもらいたいと思います。

どうすれば立場を取れるようになるのか

それは、スモールステップを積み重ねることです。大きな責任が伴わず、それほど勇気が必要でない、小さな立場の取り方を何度も実践することで、勇気を出すこと自体に慣れていくのです。それを繰り返すことで少しずつ大きな事柄で立場を取れるようになり、続けることにより更に大きな事柄に対して立場を取れるようになります。まずは、小さなことから「立場を取る」ことを実践してみましょう。手始めに目の前に起こったタスクに対して「私がいります！」と手を挙げてみてください。まさにそれが「立場を取る」ということなのです。

リーダーシップを発揮する

リーダーシップを日本語に訳すと「指導」「統率」「主動」という意味になります。「指導」と聞いて、まず最初に思い浮かぶのはスキル指導だと思います。手順を教えるというものです。また、経験や考え方を指導するということも含まれるでしょう。

次に「統率」ですが、これはマネージャーとしての役割を意味すると思います。タスク管理も統率ですが、みんなの心や意識を一つの方向に向けることも統率です。ということは、リーダーは心や意識を向ける方向性を明確に持っていない必要はありません。もちろん、今の時点での方向性が構いません。神様ではないので、究極の方向性が今から完全に見えているということでも良いと思います。

最後の「主動」は、自ら動き、背中で見せるリーダーシップではないでしょうか。率先垂範という言葉の通り、まずは自分がやって模範を見せる。それこそが、リーダーシップが発揮できている状態だと思います。

これらのような基準をもとに皆さんなりのリーダーシップを発揮してもらえればと思います。役職者だけが、リーダーというわけではありません。役職がなくてもリーダーにはなれますし、リーダーシップを発揮できていなければ役職者であり続けることはできません。

Real Styleismが求めるリーダー像

リーダーにも様々なタイプがあります。強制的に物事や人を動かそうとするタイプや、関係性を重視して仲間づりを重視するタイプ、意見を広く取り入れ、公平になるように周りを調整するタイプなど、様々です。

Real Styleismが求めるリーダー像は、社訓に沿って適材適所で「あり方」を変えられるリーダー（社訓を基に、成長に最も適した「あり方」をその都度考え、柔軟に取り組める人）です。

人はどうしても一貫性の法則が働き、一つの手法で対応しがちですが、世の中もチームも常に変化しています。従って、柔軟に変化できなければ、リーダーとしても社員としても会社としても生き残ることはできません。各々発揮しやすいリーダーシップの形があると思いますが、一つに固執するようでは柔軟に変化に対応できないのです。まずは様々なリーダー像があることを認識し、自分にあったものを把握し、その時々で最適なものを発揮してほしいと思います。

フォロワーシップで支える

誰かを助けるといいうのは上長だけの特権ではありません。入社初日の新人でも、他のスタッフやお客様をサポートすることは可能です。人は支えあうことで生きていけるとよく言いますが、確かにその通りで、それほど難しい話ではないと思います。困った人がいれば手を差し伸べる。助ける相手が仲間かそうでないかは関係ありません。これは社内でも社外でも同じです。別の部署だから、会社の人じゃないから、日本の人じゃないから、人間ではないから助けない。このような考えが、環境破壊や戦争、過剰な企業間競争や仲間割れを誘発するのです。

同じ地球といふところに生まれた生き物として、フォロワーシップを発揮することで最高の成果を上げることができ、成長が加速し、幸せを感じ、この世に生を賜った意味を成すことができるのではないのでしょうか。

不平不満を言うのではなく、建設的に考え行動する

不平不満や愚痴と改善提案は似て非なるものです。前者は会社や人に対してのゴシップと同義で、何も生み出さないうころか、企業だけでなく人を腐敗させます。しかし、後者はどのようにすればより良くなるかという意見や悩みに変容します。改善提案には「より良くするために何ができるか」を考えたり行動したりするという可能性が後に繋がっているのです。不平不満や愚痴は、問題点を声に出すだけで、改善策の提案や改善したいという意思表示が含まれていません。ネガティブな発言は聞いた人の前向きな思考や意識を削ぎ落とし、企業文化を良くないものに変えてしまいます。人は良くも悪くも周りに影響を受けてしまいがちなので、全員が前向きでより良くなっていくことに意識が向くように、健全な企業文化を維持する必要があります。だからこそ、人の心の腐敗に繋がる不平不満や愚痴は絶対に避けなければいけないのです。

私心に支配されない

人は欲やエゴにまみれています。欲やエゴを持っていることは悪い事とは思いませんし、それがなければ人間らしさが消えてしまおうと思います。欲やエゴはあってもいいものの、溺れてしまおうと人生を台無しにしてしまいます。「足るを知る」や「謙虚」という言葉があるように、何事もバランスが大事です。常に欲やエゴが50%よりも大きくなってしまっはいけない。私たちは常に私心を入れずに、この世に生を受けた理由に向けて成長し、役に立たなければなりません。それが生命の源泉です。

「利己ではなく利他の心で」とはよく言いますが、完璧に清廉潔白というのは難しくとも、それでも清廉潔白な人とそうでない人なら、誰しもより良くありたいと思うはず。それならば私心や利己ではなく、利他のために命を燃やしてみてもよいのではないのでしょうか。常に1%でも多く。決して50%以上をエゴに満たされてしまわないように。

第4章

私たちは、小さな問題を放置せず、
即改善します。

物事の本質を見極める

人によって「本質」の意味も変わってくるように思いますが、言葉の意味を調べてみると「最も大事な根本の性質・要素」と出てきます。そう考えると、その人なりの本質が見えてくると思えますし、Real Styleで働くスタッフとしての本質はある程度決まってくるのではないのでしょうか。

大事な根本は何かと考えるうえで「社訓」はそれを最も効果的に導き出すツールだと思います。そして、Real Styleで重きを置いている「成長」というキーワードから照らし合わせても答えが導き出せると思います。お客様を幸せにする仕事をする。日々学び続ける姿勢。何がより良いかと考えるあり方。小さな問題も放置しない改善意識。自分も周りも笑顔にするユーモア。これらがReal Styleで働く上で最も大事な価値観です。各自で見つけ出す「本質」も大事ですが、社会人として、Real Styleのスタッフとして、社訓をベースに

物事を考えてみてください。

物事の本質を見極めるのに、社訓は非常に効果的なツールだと思います。これは仕事に限らず、人生においても活用できると自信を持っています。本質は不変のものです。自身の気持ちや環境、周りの意見などは常に変化します。私たちはそれらの影響を強く受け、時に本質を見失ってしまうことがあります。私たちの判断は曖昧であるからこそ、変わらない基準を持つ必要があります。その一つが社訓であり、物事を見極めるためのツールにもなります。自身の心に問いかけ、社訓をベースに判断をし、出した答えに違和感がなければ問題はないでしょう。しかし、人は違和感に気付きながら、気付かなかったフリをし、そのまま進めてしまう場合もしばしばあります。自分の心にウソをつく自己欺瞞は、自分の心を良くない方に進めてしまいます。自己欺瞞がないかを確認しながら、皆さんが答えに辿りつくために社訓を活用してもらうことを願っています。

素直と従順は違う

「素直な人」と「言うことをよく聞く人」は、似て非なるものです。人の言うことを聞くというのは、素直であると言える場合もありますが、従順なだけということもあります。自分の頭で考えず、言われた通りにしか行動を起こさないのは社訓にある「何がより良いかを常に考え、明確に立場を取り自ら行動する」ということからずれています。これは時に「イエスマン」と言われます。イエスマンを周りにおいて、気持ちよくなるリーダーは論外ですが、自分自身がイエスマンになってしまっていることに気付いていないのも大きな問題です。

これでいいのかと常に自身に問いかけ、人は怠慢や自己欺瞞に支配される可能性があるということ、常に念頭に置いておく必要があります。素直で居続けることは大切ですが、イエスマンになってしまわないように、もし社訓に沿っていないと感じたのであれば、たとえ相手が上席であったとしても、提言しなければなりません。

顔色窺いは信頼を失う

私たちは時に、お客様ではなく上司や同僚の顔色を窺ってしまうことがあります。意識して行っている場合と、無意識の場合があると思いますが、まずは顔色窺いをしていないことを顕在化させる必要があります。無意識の場合は、そもそもReal Styleの文化にフィットしていない可能性が考えられます。そんな時は、周りが勇気をもってその人に指摘してあげないといけません。それがReal Styleの本来の文化です。

もう一つは、会社の文化自体が顔色窺いや忖度の文化に変わってしまったという場合が考えられます。ですが、私たちは決してそのような文化に歩みを進めてはいけませんし、違和感があればスタッフ総出で文化を守るための行動が必要です。本人に自覚が多少でもある場合は、単純にカルチャーフィットしていないということなので、早急に改善する必要があります。その意思がなければ、Real Styleで働き続けることはできません。

分かりやすい答えに行き着いた瞬間に思考を止めてはいけない

人は本能で、今まで生きてきた現状を維持しようとしています。「変わらない」という選択を本能的にするのです。しかし、人は理性も持ち合わせているため、本能で「変わらない」と選択しそうになっても、成長に向けて「変化する」「今までと違うものを選択する」ということができるのです。もちろん、今までと違う選択が正しいとは限りません。しかし「なるほど」と分かりやすい答えが正しいとも限らないのです。

よく考えると一見正解のように見える事柄が正解でないこともあるので「なるほど」で思考を止め、物事を進めてはいけません。そして、時には「不正解」であると察知しているにもかかわらず、その不正解を選択することがあります。本能的に「変わらない」ことを選択し、怠慢という結果になってしまつたのです。

思考を停止させて本能に赴くままに生きるのはただの動物です。私たちは動物ではなく、人間として生きていか

なければなりません。

議論することを恐れない

人は怠慢だけでなく「恐怖」からも思考や議論を停止することがあります。考える事や議論する事を面倒だと避けていては「より良い結果」を導き出すことはできません。怠慢と同じくらい思考や議論を止めてしまうのは恐怖です。人は恐怖に囚われると何もできなくなってしまうのです。

議論には、意見の対立やアイデアへのネガティブなフィードバックなどもあります。嫌な気持ちになるなら議論自体をしないという逃避に陥って人は自身が傷つくことを避けようとしています。しかし、傷つくことこそその議論の先にある成長を天秤にかけた時、どちらを取るかを選択する必要があります。味方との議論は傷つくのではなく、気付きを与えてもらえるものではないでしょうか。この違いに気付かず本能のまま反射的に逃げていては、いつまでたっても人間ではなく動物のままです。何がより良いのかを考え、立場を取って、違う意見に対しても議論する精神性を人として発揮してほしいと思います。

問題点を指摘することへの恐怖

問題点を指摘されると、なかなか心地よいとは感じられないかもしれません。そして、指摘する側には提言する勇氣が必要です。問題点を指摘されると、間違いを顕在化された事実がそこにありますし、実際にはそうでなくても問題点を指摘されたことが人格を否定されたような気持ちになるかもしれません。逆に指摘する側も、相手にそのような気持ちを与えてしまうかもしれないと、自分の発言に責任が生じ不安を感じたりすることもあるかもしれません。しかし、Real Styleのメンバーなら恐れずに意見してほしいと思います。まず、指摘する側もされる側も個人の人格を否定していいのではないと信じてください。時に感情的になって個人を否定するような意見が出るかもしれません。しかし、そんな時は双方を救う意味でも、周りの人は注意をしてあげてほしいです。注意のポイントは人ではなく、あくまでも意見やアイデア、行動に対してです。

一見、問題点を指摘したりされたりすると人格に対してのよう感じてしまい感情的になりがちですが、その点は現実と解釈を明確に分別してみてもいいです。問題を指摘する側もされる側も、味方であること、仲間であることを忘れず、意識して人ではなく問題に焦点を当てるようにしましょう。そして、忘れないでほしいのが不安や恐怖に囚われて、問題点を指摘しない選択を無意識に、時には意識的に行ってしまうこと。これは、社訓に沿っておらず、絶対にあってはならないことです。勇気と愛をもって目の前の問題に取り組みましょう。みんな仲間なので、大丈夫。ただし、言葉の選択は慎重に。

問題解決しようとしている人に協力する

人は常に「面倒」という怠惰な気持ちに支配されることが多いです。目の前の仲間が困っていても、助けるよりも先に「自分の仕事が増える」「これは自分の仕事ではない」など、様々な理由を付けてサポートすることに抵抗感を持ち、サポートしないことを正当化し、それを選択してしまいます。このような思考や選択は、人として成長することと逆の選択に繋がります。人を手伝うということは、その人の何らかの問題を解決すること。問題というトピックを連想するかもしれないので、トピックと言い換えたほうがビッタリくるかもしれません。

Aさんが、あるトピックで悩んでいたりと、躓いているとします。そこで、そのトピックを解決する糸口をあなたが持っているなら、それはAさんのトピックの解決に繋がるし、あなたの経験にもなります。しかも「徳を積む」ことにも直結します。人を助けるということは、自身の成長に繋がります。人として良い行いをするという徳を積むことにも

繋がるのです。徳を積むということは相手に対しても、周りの人に対しても、信用残高を積み上げることになります。Aさんからのあなたへの信用が増し、周りの人もそれを知ればあなたを信用してくれるでしょう。信用を勝ち取るためにするわけではないですが、これは大なり小なり事実だと思えます。確かに目の前のタスクが詰まっていたり、忙しい状況であれば、助けの手を人に対して差し出しにくいかもしれません。しかし、それは本当にどうしても無理な状況なのでしょう。実は自己の怠慢なのかもしれません。当の本人と神様は確実に観ているし知っています。どんな選択も自分次第なのです。

無意識の顕在化

度々、意識と無意識の話が出てきますが、無意識を扱えるようにトレーニング（何に対しても）「それ本当？」と自問自答（）をするよう努めてほしいと思います。現実と解釈を分別する、無意識に気付く。これによって、空想ではなく現実を生きていけます。現実を生きていないと解釈まみれの苦しい毎日を送ることになります。そして、その苦しみから逃れるために気付いていないフリをして自己欺瞞を続けていると、顔がどんどん変わってきます。もちろん、良くない顔にです。「解釈を含んだ無意識」に気付ければ、とても大きな成長に紐づきます。いわゆるパラダイムシフトです。

目の前のことや自身の感情に気付いていないフリをするのではなく、自己欺瞞にならないように魂に誠実に生きてほしいと思います。完璧でなくても構いません。しかし、1歩でもそのように近づく努力は惜しまないでほしい

です。それがRealStyleのメンバーとしての在り方ですから。

第5章

私たちは、笑顔とユーモアを忘れず、
率先して仕事を楽しみます。

元気で明るく笑顔でいることの大切さ

元気に笑顔で挨拶をすることは、ロバート・フルガム氏の教えではないですが、幼稚園で習うことだと思えます。皆さんはできているでしょうか？元気に笑顔で挨拶をする人の周りには、笑顔の人が集まってくることはイメージが湧くと思います。元気な人と元気でない人では、元気な人のほうが、より好感が持てます。辛い時や悲しい時にまで元気でいるべきだとは思いませんが、元気な日が多い方が、周りに良い影響を与えることは確かだと思います。元気が出ない時でも、意識して元気でいることができれば、元気も出てくるはずですよ。

笑顔という言葉は社訓にもありますが、コミュニケーションをより良く、円滑にする大きな要因です。笑顔の人としかめっ面の人、どちらと一緒に居たいかと考えればすぐにわかるでしょう。笑顔のないしかめっ面の人と、場や行動を共にするというのは心地のよいものではありません。

ミラーリングというものがあります。「赤ちゃんが笑顔になるのは、母親が笑顔で赤ちゃんをのぞき込んでいるからだ」というのがそれです。不機嫌な人が周りにいれば、どこか気分が良くないし、怒っている人がいれば怒りの感情に周りも巻き込まれます。

何度も言いますが、笑顔で感じのいい人には人が寄ってきます。少なくともネガティブな感情を周りに抱かせることにはないと思います。笑顔でいることで、仕事はもちろんのこと、人生が今まで以上に好転することは想像に難くないでしょう。

前向きに考えられる思考を持つ

物事を卑屈に捉えて評価されるのは一部のお笑い芸人ぐらいだと思います。ほとんどの人は、後ろ向きで卑屈な考えを持った人とは付き合っていないんじゃないかと感じる人が多いのではないのでしょうか。

ポジティブな良いエネルギーを与えてくれる人とは行動を共にしたいと思うけれども、ネガティブでしんどい気持ちになる人とは一緒に居たくはないはずです。物事を明るく、善意に受け止めることができる人は、周りの人からもポジティブで善意に満ちた評価を得られると思います。そのような評価を得るために、ポジティブに振る舞うというのもしかと思いますが、やはり人に限らず全ての生物はエネルギーを発しています。どちらかと言えば、人に喜ばれる、好かれる、近づきたいなど思われるエネルギーを発していたいものです。

与えられた仕事や環境を「好き」になる。興味を持つ

仕事は与えられるものでしょうか。それとも自身で創り出すものでしょうか。どちらも正しいと思いますが、社会人になったばかりのスタッフだと「与えられた仕事」の方が多いのではないのでしょうか。最初は「与えられた仕事」をこなすことから始まるもの、ここで「やらされている」とか「こんな仕事…」と選り好みをしていては、学べるものも学べません。学びがないと思うのなら、仕事を与えた人に「学びのポイント」を聞けばよいでしょう。また仕事を与える側も「学びのポイント」を伝えて業務を割り振るとよいでしょう。

武道の世界には「守破離」という言葉があります。最初は型を真似ることから始めます。何とも否定的に受け止めて取り組めば、学べるものも学べなくなってしまうます。まずは、目の前に現れた、与えられた仕事に誠心誠意取り組んでみましょう。そして、その仕事から何が学べるか、学びのポイントとして習った以上のものを得ること

とができれば、仕事を与えてくれた人よりも多くの学びをその仕事から得たこととなります。また、仕事を重ねることによって「自身で業務を創り出す」ということが必要になってくることでしょう。勤続年数を重ねても「与えられた仕事」をしていては、社訓に沿っているとは言えませんし、Real Styleのカルチャーにもフィットしていません。しかし逆に、新人であっても「与えられた仕事」から学びを得て、自身で新たに仕事を創り出していくことは、社訓に沿った素晴らしい行動と言えます。

面白いと思えない仕事を楽しむには

毎日の仕事は楽しいですか？それともつまらないですか？幕末の英雄、高杉晋作も「おもしろき こともなき世を おもしろく すみなすものは 心なりけり」と詠っています。人生の約3割、起きている時間の約5割の時間を費やす仕事において、面白くないということは非常に不幸です。もし、仕事に楽しみを見いだせていないとすれば、どうすれば楽しくなるのかを考えなければいけません。そしてそれは仕事だけに限りません。料理を面倒だと思う人がいる反面、楽しくて好きだという人がいます。同じことをやっても、人によって何が違うのでしょうか。何が興味を引き、楽しいと感じさせているのか、好きの源泉を探究してみましょう。

例えば、スポーツは顕著です。好きこそものの上手なれで、辛くても努力を続けることができます。どうして同じ事柄に対して真逆の反応が生まれるのでしょうか。まず、それらの事柄を自分で選択しているということがポイ

ントの一つです。「自分でやると決めている」のです。そして、得られる報酬がたくさんあるはずです。おいしい料理ができ上がったリ、スポーツが上達したり。

仕事においても同じです。できなかったことができるようになったり、成果があがったり。結果に意識をフォーカスすると、成長が見えてきます。人はできるようになると楽しくなるものです。まずは、仕事において何をやり遂げたのか、大きな成果でなくとも、どんな結果が出たのか。これらを見極めて顕在化させることで、楽しむための片鱗がどんどん見えてくるはずですよ。まずは目の前の仕事に取り組み、どんな結果になったかを見てみましょう。そして、結果だけでなく「コミュニケーション」も仕事を楽しくさせるポイントです。同じ目的に向けて前進する共通のコミュニケーションの中にいると非常に心地のいいものです。

このように、楽しみ源泉は様々なところにありますが、仕事においてそれらの源泉を見つけ出す努力をすることは、人生の大半をかける仕事において、より良く生きるためには必要なかもしれません。

感謝しよう

「ありがとう」という言葉を投げかけた氷の結晶は、とてもハッキリと綺麗な結晶が見えて、逆に「バカヤロウ」と罵声を投げかけ続けると、その結晶はポロポロに崩れてしまうそうです。人は日々、様々な言葉を浴びていますが、その中でも感謝の言葉は感情だけでなく、6割以上が水でできている私たちの身体にも物理的に良い効果をあげるようです。感謝を伝えることで、伝えられた側は自分を肯定されたと感じるでしょうし、好意を抱くことでしょう。「ありがとう」と感謝を伝えられて悪い気がする人はいません。そして、伝えられた側も心地よい気持ちになっていくはずです。自分にも相手にも、そしてそれを聞いている周りの人達にも良い影響を与える感謝の言葉。これはもう言わない理由はありません！まず、目の前のその人に感謝を述べてみましょう。ありがとう。

第6章

人として大切なあり方

神様が見ているという感覚を持つ

私は、よく「神様」の話をしますが、特に信仰が深いという訳ではありません。実家の宗派も最近まで分かっていなかったぐらいです。しかし、目に見えない力が存在したり、働いたりすることは心底信じていますし、それだけ説明がつかないことばかりです。世の中は、奇跡の連続です。私たちが生まれてきたことも、実は、奇跡の連続だということは聞いたことがあるでしょう。

人は、目に見えるものは信じて、目に見えないものは信じません。しかし、昔の天動説が地動説に入れ替わったように、それまで当たり前としていたことが瞬時にひっくり返ったりします。パラダイムというものは、瞬間で変わるのです。パラダイムも目に見えないものの筆頭ですが、やはり、神様の存在も見えはしないけれども存在するとしか言いようがありません。そして、その神様は、私たちの心の中にいるのかもしれない。善い行いから生まれる「奇跡」は、

神様から与えられたものだと思いますし、悪い行いをしたときに生まれる「バチ」も、私たちの心の中にいる神様から与えられたものように思います。「誰も見ていないから、バレないから、気付かないって」「こういう心の隙間を、悪魔は見つけて侵入してきます。そして、その侵入を許すのは、私たちの心の弱さです。神様は、その悪魔に打ち勝ったことも見えていますし、負けてしまったことも見えています。打ち勝ったときには「自己肯定感」という「褒美」をくれますし、負けてしまったときには「自己嫌悪感」というバチが与えられます。私たちの心の中にいる神様は、いつも私たちの心を見ているのです。

徳を積む

「徳を積む」という言葉。よく聞く言葉ですし、誰しも意味はなんとなく分かると思います。

儒教をはじめ、様々な宗教でも「徳を積む」ことについては取り上げられています。要は、「人として良い行いをする」ということです。

例えば、街の掃除をしたり、横断歩道を渡るおばあちゃんの手を引いて歩くことなどが連想されますが、そういう分かりやすいことだけではなく、もっと小さなことでも良いと私は考えています。例えば、「元気に挨拶をする」。これで周りの人がちょっと気持ち良くなる、一つの徳を積むことになります。「トイレの電気を消す」。エネルギー削減の観点からすると、これも徳を積むことになります。他にも、社内のゴミ出しを手伝う、家のお風呂掃除をする、トイレトペーパーを新しいものに替える…など、人として良い行いをするのが、「徳を積む」ことなのです。

しかし、これはどうでしょうか。元気な挨拶をしてきた人に対して、返事をしたかどうか分からないような不愛想な態度を取る。トイレの電気を消し忘れたのに気付きながら、面倒だからと消しに行かない。「ゴミ出しをしている仲間を尻目に、忙しいフリをして手伝わない。奥さんがいつもお風呂掃除をしてくれているのを知りながら、今日も任せてしまう。トイレトペーパーがないことに気付きながら、新しいものを出すのが面倒だからそのまま席に戻る。これらは、「徳を積む」とは真逆のことです。つまり、人として良くないことをしているという事です。さて、これを読んだあなた。今までは、心の端っこが痛いような、気持ち悪いような何とも言えない感情や感覚がありました。小さくすぶりなので無視できたかもしれませんが、これを知ってしまったからには、この心の痛みは確実に増幅します。

それでも、徳を積まない、人として良くないことを続けますか？目の前の小さな善行が徳を積むということを手得て、今すぐ取り組みましょう。

正直に生きる

ウソをつくということは、大きなウソであっても小さなウソであっても、自分自身の魂を曇らせてしまいます。そういう私も心が弱いので、しょっちゅうウソをついてしまいます。そして、それは神様が見ていて、自己嫌悪感というバチを与えてくれます。そのバチのおかげで、再発する確率は下がります。

逆に、正直でいると、神様から自己肯定感というご褒美が与えられます。正直に生きる。魂の向くまま、自分自身にウソのない人生を生きる。これは、家族にも先祖にも誇れる生き方だと思えます。世の中の人に誇れる生き方を選択するということは、人として非常に素晴らしい生き方だと思えます。

他責ではなく自責で物事を考える

森羅万象、良いことも悪いことも全て自分自身が導き出した結果であるということに責任を負わなければなりません。良いことは「自分のおかげ、自分が頑張ったから」と思えるのに、問題が起きた途端にそのように思えないのはなぜでしょうか。人は、弱い生き物ですから、どうしても無意識に逃げてしまいます。しかし、逃げていては、自身の人生を生きることはできません。決して他責にすることなく、全てのことにおいて自責であると認識すること、とても輝いた生き方ができます。自身の魂が輝き始めますし、周りの人からは信用を得ることが出来ます。非を認めるということは、一見ネガティブなように感じるかもしれませんが、それが信用に値するということをあなとも知っているはずですよ。なのに、自分事となると急に自分にウソをつく。他責でいることは、自己欺瞞だということに気付かないといけません。

人の良いところを見つける

人は、できていないところよりも、できているところを指摘されたほうが気分が良いものです。私自身、人のできているところにたくさん気付いてはいるものの、まだまだ未熟なため、できていないところにも同等に目が行ってしまいます。そして、改善を促すために、足りない部分を伝えてしまいます。しかし、前述のとおり、人は良いところを見つけてもらうほうが気分が良いもの。それならば、周りの人のできているところに目を向け、その点を伝えるようにすれば良いと思います。良いことはわりから言われて勘違いし、その人が全能感に囚われてしまう（裸の王様になってしまう）ことは望みませんが、各自が最高のパフォーマンスを機嫌よく出せることは心から望んでいます。ぜひ、目の前の人の良いところを伝えてあげてください。自分がされて嬉しいことは、周りの人にとっても嬉しいことなのです。

全員的心を一つにする

仕事は一人で作っているように見えても、実はチームで行っています。一人で仕事をこなすことも可能ですが、チームで取り組んだ方が、大きな成果をあげられるケースが多いです。目標に向けてエネルギーを集め、スタッフが丸となって取り組むことで、大きな成果をあげることができます。困難にぶつかったときなどは、特にその傾向が顕著に現れます。問題が大きければ大きいほど、関わる人たちのチームワークは強くなります。問題に対して早く共通の認識を持ち、解決しなければならないという時に、自然とチームワークが生まれるのだと思います。しかし、トラブルが起った時だけでなく、通常業務時にもチームワークが発揮されれば、とても大きな成果をあげられる強いチームになっていくと思います。

行動し続ける

身体が生物としての活動をやめること、それを「死」と呼ぶのではないだろうか。死の定義は、明確には無いように、脳や心臓が活動しないこと、呼吸が止まっていることを「死」とするようですが、活動をやめる（動かない）ことは死んでいるということになるようです。では、私たちはちゃんと生きているのでしょうか。思考の停止や行動の停止、決断の先延ばしなど、私たちは、ある意味、常に「死」と隣り合わせではないでしょうか。

考えを止めることは、思考が死んでいることと同義ではないでしょうか。「行動していない」ということは、その人の存在が死んでしまっていることと非常に似通っているように感じます。決断の先延ばしは、「人生そのものの死」ともいえるのではないのでしょうか。大げさに聞こえるかもしれませんが、その選択によって起こるはずの人生が起らないということは、生きていない＝死ともいえるのではないのでしょうか。

しかし、次々に選択することが全てでもなければ、先延ばしにしたほうが良い場合もあります。選択によって未来を予期することが難しいという不安がある場合は、選択するリスクよりも今の状態に留まるほうが安全で良いという考えもあります。このような意図を持った先延ばしは、死んでいることにはならないと思います。これは「選択をしていない」という訳ではなく、「意図して先延ばしをする」という選択をしているのです。つまり、「今は決めない」という決断をしているのです。

このように、「意図した先延ばし」と「意図しない先延ばし」には、大きな隔たりがあります。意図しない先延ばしは、未来が死んでいます。選択していない未来なんて、手綱を握らない人生そのものです。あなたは、行動していますか。自分の人生の手綱は、自分で握るものです。行動しましょう。

第7章

仕事の進め方

なぜ仕事をするのか

私たちは、なぜ仕事をするのでしょうか。もちろん、お金のためであることは否定しませんが、ある程度潤いのある生活ができれば、多くを望もうとする人が最近は少なくなったような気がします。昭和の高度成長期では、高級車に乗りたい、豪邸に住みたいというような物質的な目標を掲げる人もいたように感じますが、最近では比較的那ういった話は聞かないように感じます。経済的な成功が、今の世の中における成功の全てではないと誰しも気が始めているのです。それよりも、精神的な喜びや成功の方が重視される世の中に変わってきているように感じます。

その良い例が、NPO法人の数です。この10年ほどで、NPO法人の数は、約6倍になっています。人が何かに役立つことに重きを置いていることは、間違いないと思います。NPO法人は営利ではないので、利益を出すことを目的としませんが、私たちは営利の会社組織なので、会社存続と経済発展のために、利益をしっかりと出さなけ

ればいけません。そして、利益の向上は、働くスタッフたちの給与や福利厚生としても反映されます。働く目的の全てがお金のためという訳ではないことは、各自認識しているでしょう。では、お金以外の目的は何かと問われると「やりがい」「というふうな、ふわっとした答えになってしまいますが、ふわっとした回答でも問題ないと思います。経済的・物質的な成功は目に見えますが、精神的な成功は目に見えにくく、目に見えないものを明確に定義づけることは非常に難しいです。

私たちは、物質的な成功だけでなく、それを超える精神的な成功も求めていることに気が始めています。そう、仕事は私たち自身が成長し、より良くなっていくためにあるのです。そして、その成長の過程を歩みつつ、お金がもたらえるという素晴らしい事柄が仕事なのです。皆さん、ドンドン成長し、ドンドン社会に貢献しましょう。そして、お金も稼ぎましょう。

スピードを重視する

石橋を叩いて渡らない人、さらには石橋が割れるまで叩いてしまう人も中にはいます。慎重を期して行動することが高評価を得られるときもありますが、行動が遅いとチャンスを逃す恐れもあります。どの程度のスピード感がベストなのかを表現することは難しいですが、より良いスピード感ほどのあたりかを常に模索することは大切です。

また、その模索するスピード自体を上げることで、瞬時に適切なスピード感を持つことができます。こういうことを考えていると、平均スピードが上がるので、普通に事を起こすこと自体が周りにはスピーディーだと感じられるかもしれません。安全なスピードが速ければ、申し分なしです。常にスピードを意識することで、平均速度を上げていきましょう。まずは70点からでも進めてみましょう。

マネジメントできる人が増えれば組織は大きくなる

マネジメントには、他人のマネジメントと自分自身のマネジメント、そして時間のマネジメントがあります。ピーター・ドラッカーはマネジメントを「組織に成果をあげさせるための道具、機能、機関」と言っています。ここで、組織に成果をあげさせるとなっているのは、仕事におけるマネジメントという前提があるからだと思いますが、マネジメントは仕事のみならず人生の成果をあげるツールとしてとても役立つと思います。皆さんの人生においても、自分自身や時間をマネジメントすることで、とても大きな成果をあげることができると思います。そして、マネジメントによって素敵な人生を送るスタッフが増えれば、結果的に会社にとっても幸せなことだと思います。自身のマネジメントに長けたスタッフがたくさんいるということは、会社の生産性もとても大きくなると思います。ぜひ、皆さんも自身の人生のマネジメントをしてもらえればと思います。

アンテナの感度を高める

私はよく「アンテナの感度を高める」という話をします。「ここでいう「アンテナ」とは「物事にピンとくるセンス」です。変化や違いに気付くことができれば、それを改善することも可能ですし、良さをすることもできます。新しい物事に対する感度が高ければ、アイデアや工夫につながる可能性が高くなります。興味に対する感度が高ければ、情報や知識、知恵はどんどん自分の中に集まり、蓄積されます。

色んな事柄へのアンテナの感度を高める努力を続けることで仕事はもちろんの事、人生においても大きな成果が上げられると思います。

アンテナの感度を高めるには

とにかく、多方面で「何がより良いか」を検討している回数がアンテナの感度に直結します。私の場合は、サラリーマン時代からずっとそのように考えていますし、独立を意識し始めてそれが更に加速し、起業してからアンテナの感度は更に磨かれています。

よく、鍵谷だからできるんだろうとか、鍵谷は特殊だというような表現を聞きますが、単純に練習量、意識してきた時間が圧倒的に多いだけです。何より、鍵谷は別だと解釈をして、自分にはできないと判断してしまうことはとても簡単ですが、それは成長を放棄していることになりました。当然、年齢やかけてきた時間が違うわけですから、同じレベルのアンテナの感度は難しいかもしれませんが、工夫次第で追いつくことも、追い越すことも可能です。その証拠に私自身、サラリーマン時代には手も届かなかったほどの感度を持った人たちよりも、現時点

では高い感度を持ち合わせていると自負しています。現時点というのは、今後私のレベルアップの速度よりもその人たちが加速し、追い越すこともあるからです。これはRealStyleのスタッフにも同じことが言えますし、全ての人に対してもそうです。

アンテナの感度はまず「磨こう」と思うことから始まります。そう思わないと強く磨かれることはありません。1の経験をすれば1の磨かれ方はするでしょう。しかし、1の経験を2にも10にも100にもするためには、アンテナの感度をもっと高めたいと思うことが必要なのです。それがなければ1の経験はいつまでたっても1でしかありません。もし、意識が低く、何も考えていなければ1の経験をしても、残念ながら1の経験にもならない場合があります。意識次第でアンテナの感度を磨くスキルは加速します。たったそれだけの事なので、まずは素直に「感度を高める」と意識してみましよう。思い続けること、考え続けること、感じ続けることが「アンテナの感度」を上げる最短ルートなのです。

気持ちよく仕事をする

気持ちよく仕事をすることは、大きく成果をあげることに大事な要素だと思えます。気持ちよく仕事をするので、ストレスもかからず、仕事を楽しく感じるができます。そして「機嫌よく仕事をする」自身の機嫌は自分で取るのです。人に機嫌をよくしてもらっても、いつでもそうしてもらえとは限りません。しかし、自分で自身の機嫌を取ることができれば、いつでも気持ちよく仕事に取り組めるのです。では、どうすることで自身の「機嫌取りができるのでしょうか。これは人によって違いますが、トリガーリストを用意しておくのです。「この音楽を聴けばテンションがあがる」「この本を読めば気持ちがあがる」「この人に会えば、心が落ち着く」「この景色を見るとスカッと心が突き抜ける」など、色んなトリガーリストを持っておくことで、自身の気分を好転させることができます。心のトリガーリストを書き出して、常に見ることができるところに持つておきましょう。と、その前に「機

嫌が悪くなっている自分」に気付くことが先決です。これは周りの人に伝えてもらうと良いのですが、忖度や面倒だと思われてしまったりは知らせてもらうことができません。安心できる、信用できる仲間に事前に相談しておくことが重要です。上席にお願いをしても良いですし、家族などのパートナーにお願いしておくのも一つでしょう。機嫌よく、気持ちよく仕事をしていると心がウキウキしますし、成果も大きく上がります。

2005

- [4月] 株式会社Real Style設立
ソフトテニスの指導教材「濱中流」販売開始

2006

- [5月] 【コンテンツ事業部】各種スポーツ教材の販売開始

2007

- [3月] NPO法人テラ・ルネッサンスとアフリカのウガンダに学校を建設

2011

- [9月] 【ビーレジェンドプロテイン】販売開始



2012

- [1月] 東京都品川区大井スポーツセンターに野球スクール「MAXベースボール」開校
- [2月] 指定管理事業部スポーツスクール部門開始
- [4月] 広陵町 第二浄化センタースポーツ広場の指定管理者に選定される管理・運営開始

2013

- [4月] 五條市阿田峯公園の指定管理者に選定される管理・運営開始

2014

- [4月] 【指定管理サッカースクール】ディアプロッサ高田と連携し広陵校開校
- [4月] 【指定管理テニススクール】ユニークスタイル天理校開校
- [7月] 「リアルスタイルフィットネスクラブ」大和高田市にオープン

2015

- [3月] リアルスタイルフィットネスクラブ「VIPパーソナルトレーニング」開始
- [5月] 【指定管理テニススクール】ユニークスタイル広陵校開校
【指定管理テニススクール】マネージメント展開滋賀県湖南市開校
- [6月] 【ビーレジェンドプロテイン】モンドセレクション最高金賞受賞プロテイン部門で世界初受賞



2016

- [2月] 子会社として株式会社RealStyle JAPAN 設立
- [4月] 株式会社RealStyle JAPAN がスポーツ用品販売の海外並行輸入事業を開始
- [10月] アパレル事業部新設

2017

- [1月] 大和高田シティプラザ4階にオフィス移転
- [1月] 奈良市学園前に「リアルスタイルフィットネスクラブVIPパーソナルトレーニング」2号店オープン
- [5月] 【ビーレジェンドプロテイン】モンドセレクション最高金賞3年連続受賞
【ビーレジェンドプロテイン ベリベリベリー風味】モンドセレクション審査員特別賞受賞
- [6月] プライバシーマーク（認定番号:第17003047号）取得
- [6月] 【ビーレジェンドプロテイン】iTQi国際味覚審査機構優秀味覚賞受賞プロテイン部門でアジア初受賞
- [9月] 「大和高田市いきいき社会社宣言事業所」認定登録



2018

- [6月] 磯城郡田原本町に「リアルスタイルフィットネスクラブVIPパーソナルトレーニング」3号店オープン

2019

- [4月] 【地域総合型スポーツクラブ】リアルスタイル高田スポーツクラブ設立
- [6月] 【ビーレジェンドプロテイン】モンドセレクション最高金賞5年連続受賞
【ビーレジェンドプロテイン】iTQi国際味覚審査機構優秀味覚賞3年連続受賞
- [10月] スポーツサプリメントにおけるアンチドーピング認証であるINFORMED CHOICEを取得
- [10月] Yahoo!ショッピング AREA AWARDS 2019 奈良県大賞 / Yahoo!ショッピング AREA AWARDS 2019 奈良県スポーツカテゴリ賞第1位
- [12月] 楽天SHOP OF THE AREA 2019 関西エリア受賞



2020

- [1月] 組織改編により、現在の10事業部制での業務を開始
- [4月] 【自社施設テニススクール】ユニークスタイル桜井校開校
【指定管理施設テニススクール】ユニークスタイル御所校開校
- [10月] Real Style JAPAN を吸収合併し、EC事業部の一部として運営開始
- [12月] 楽天SHOP OF THE AREA 2020関西エリア受賞

2021

- [3月] 奈良県大和高田市にスタジオを併設したサテライトオフィスをオープン
- [3月] 大阪市中央区に初の大阪店となるbe LEGEND VIP PERSONAL TRAINING 御堂筋本町店をオープン
- [7月] 橿原市葛本町に CONDITIONING GYM WELLS 1号店オープン
- [7月] リアルスタイルフィットネスクラブから be LEGEND GYM に名称変更
- [7月] 奈良県内のリアルスタイルフィットネスクラブVIPパーソナルトレーニング3店舗を be LEGEND GYM VIP PERSONAL TRAINING に名称変更



株式会社 Real Style

〒635-0086 奈良県大和高田市南本町11-11

大和高田シティプラザ4階

TEL:0745-43-5400

氏 名

部 署

連絡先

これは私にとって非常に大切なダイアリーです。
拾われた方はお手数ですがお知らせくださるよう
お願いいたします。

著者プロフィール

鍵谷 健 (かぎたに たけし)

1973年生まれ、奈良県出身。株式会社 Real Style 代表取締役社長。運動音痴な少年時代を経てテニスコーチになった経験から「やればできる」をスポーツを通じて伝える仕事を行う。現在はスポーツDVDの製作販売や「ビーレジェンド」を中心としたスポーツサプリメントの製造販売、テニスや野球などのスクール事業、アパレル事業、フィットネス事業を行っている。

 Instagram @belegendkagitani

 twitter @Kagitanitakeshi

 Facebook <https://www.facebook.com/takeshi.kagitani>

